

報徳園だより

〒514-0065 三重県津市河辺町 1317-1
TEL:059-228-1951 FAX:059-228-1952 <http://www.houtokuen.jp/>

題字 前理事長 常磐井猷磨

報恩講と現代社会

理事長・園長 千草篤磨

コロナ禍も少し下火になったような社会の雰囲気ですが、高齢者施設ではまだまだ予断を許さない状況が続いています。とは言え、園の行事や法要も徐々に従来の姿に近づいてきました。

さて、真宗の寺院や関係施設で最も重要な法会は、親鸞聖人の御命日のお勤めである報恩講です。昨年12月6日に高田本山の法主殿を導師にお迎えし、報徳園の仏間にて入所者、役員、職員が揃って報恩講のお勤めをしました。昨年は親鸞聖人の生誕八五〇年の法会が本山で厳修されましたが、聖人は90歳まで長生きをされました。現在でも90歳は長命と言えますが、鎌倉時代では尚更だと思われます。法然上人は80歳、一休禅師は88歳など長命な僧侶は少なくありません。お経を唱えたり、説法をされたり、声を出すことが健康に良いのだと現代風の解釈をする人もいます。報徳園では毎日、朝のお参りで重誓偈や和讃を唱えています。心にも身体にも良いことだと思います。



高田本山法主殿

今、元旦に能登半島で大きな地震がありました。まだ、状況ははっきり分かっていない段階ですが、高齢者施設をはじめ、多くの方が



報恩講の勤行

被災され、大変な状況になっています。職員の被災地への派遣要請があれば、積極的に協力していきたいと考えています。

親鸞聖人の時代にも地震の発生や疫病の流行などが続いていました。災害や戦乱の都度元号が変わり、聖人の90年の生涯に於いて、なんと38回の改元がありました。その内18回が地震や飢饉などを理由とする改元であったとされていますので、ほぼ5年に1度大きな災害や疫病、戦乱があったこととなります。

現代のコロナウイルスや大震災、戦争などが続いている状況と重なります。800年前の親鸞聖人の時代に比べ、科学技術等は大きく進歩した現代ですが、自然災害の発生や感染症の流行は何も変わっていないように思います。これから始まる高田本山の報恩講を通して、当時の聖人のご苦勞やご恩に感謝しつつ、今の困難をみんなの手をつなぎ、協力して乗り越えていけるようお願いばかりです。

入所者のみなさんの生活は、 心身の状況に応じて4つのゾーンに分かれています。

1丁目

1丁目の日常の様子を紹介します。1丁目では体調が落ち着いた利用者の方は離床し、観葉植物が沢山ある“みどりの広場”で過ごしてもらっています。法要に参列したり、法話を聞きに仏間に集まることもあります。日頃、利用者の方がエプロンたたみを積極的に手伝ってくれて、とても助かっています。居室でテレビを見て広場に出てくる人や、集中して絵や書き物をする人、周りで作業する人を眺める人、職員の会話に耳を傾ける人など、それぞれが思い思いに過ごされています。



みどりの広場は、みんなの様子が見渡せます。日々、利用者の体調を重視し本人の負担のない範囲で過ごしてもらっています。

2丁目

12月27日、利用者の方々が楽しみにしている年末恒例の餅つきが行われ、各丁目で杵と臼を使い、餅をつきました。職員や利用者さんの力強く餅をつく姿や、手慣れた様子の手返しに合わせて「よいしょ」と掛け声にも力が入っていました。皆さん大盛り上がりで、楽しそうな姿を見ることが出来ました。出来上がった餅は、あんこ餅、きな粉餅、おろし餅にして、昼食で皆さんに召し上がって頂きました。会話も弾み、楽しい時間を過ごされ、思い出がまた一つ増えたのではないのでしょうか。



3丁目

3丁目では、12月の誕生会に昔懐かしい歌や季節の歌に合わせて体操をして、元気よく体を動かしました。レクリエーションでは職員考案の「コロコロカーリングゲーム」をしました。簡単そうで難しく、思わず声が出てしまうような盛り上がりで、皆さん全力で楽しまれました。寒さが厳しいこの時期、体調管理に気を付け、今後も皆さんの笑顔あふれる楽しいレクリエーションを行っていきたいと思います。



4丁目

お正月の三が日は書初めや羽根つき、おせち料理やお屠蘇を召し上がっていただいたり、お正月の雰囲気を楽しんでもらえたようです。お天気にも恵まれ、近くの石積神社に初詣に出かけることが出来ました。また面会にもたくさんの方が来てくださり、いつもとは違った利用者の皆さんの嬉しそうな表情を見ることができ、職員の心も温かくなりました。今年も利用者の皆さんが元気に楽しく生活していただけることが、職員一同の願いです。



デイサービスセンター報徳園（認知症対応型通所介護）

デイサービスではレクリエーションの時間に、季節感を生かした工作や壁画作りを行っています。折り紙、ちぎり絵、色塗り、工芸などの方法を取り入れ、色合いや作り方の工程を工夫する事で、興味を持って楽しく参加していただけるようお誘いしています。「苦手やわ」「うまくいかんやろ」などと最初は引っ込み思案な方も、一緒に取り組むうちに、「これでええんか」とパッと笑顔が弾けます。これからも安心できる声かけを心がけていきたいと思っています。



在宅介護支援センター

年齢を重ねると、誰もが通院が難しくなってきます。そんな時、医師が自宅を訪ねてくれると、心強いものです。それは『在宅診療』と呼ばれます。『在宅診療』には、大きく分けて、『訪問診療』と『往診』があります。『訪問診療』は、定期的・計画的に、医師が自宅を訪ね、診察・薬の処方・御本人様や御家族様の相談に応じてくれます。一方、『往診』は、急変時や緊急時に受ける医療です。『往診』だけの利用は基本的に難しく、『訪問診療』で定期的に普段の身体状態を医師に把握しておいて頂く事が重要です。ケアマネジャーは『訪問診療』にまつわる相談や情報提供も行っています。お気軽に御相談下さい。



みんなの声

INTERVIEW

入所者インタビュー

森 志津江 さん (100才)

- ・ショートステイで来てもらっていますが、報徳園での暮らしはいかがですか
 安心ですよ。目が見えにくくて家では不便で怖いし、階段もあって外へも出られない。身内もいなくなってしまうと、ここを出されたらどうして良いか分かりません。ここは皆さん話しやすいし話も聞いてくれる。お世話になるのは申し訳ないけど馴染んでいきたいです。これからもよろしくお願ひします。
- ・長生きの秘訣を教えてください
 特にないけど、人に迷惑をかけず、できることは自分でやる。そうすることかな。



家族インタビュー

嘱託医 高橋宏明さん、
 入所者 高橋クニさん (92才)

母は以前福井県の高齢者施設に居ましたが、生活習慣や食事の好み合わない事や、大腿骨の骨折を2回繰り返したことから、退所を迫られてしまい困っていたところ報徳園に入ることが出来ました。ここでは好き嫌いはあるものの食事は美味しく食べることができて良かったと思います。皆さん丁寧に接してくれているし、食事を摂れない人でも時間をかけて食べさせている、病院ではなかなか出来ない事です。医師としても日頃から「高齢になったら自然のままに過ごしてもらいたい」と思っていますので、家族の思いもあり高齢者施設の難しい面もありますが、「報徳園では食べたいものを食べたいだけ食べて、したいようにさせてもらえたら良いのではないか」と思っています。



地域のみなさんへのインタビュー

津北ロータリークラブ会長 東 和生 さん

私の母は報徳園で5年ほど暮らし、92歳で亡くなりました。最期は病院には行かず、施設での看取りをお願いしました。家からも歩いて行ける距離にあり、また知り合いの方が職員だったこともあり、安心しておまかせしていました。

これからの報徳園に期待することは、建物や設備を改修していくというハード面も重要ですが、それよりも職員の方の資質や専門性など、ソフト面を今まで以上に大切にしていってほしいと思っています。

現在、津北ロータリークラブの会長をしていますが、今年は一般の方にも会の活動を広く知ってもらうために、マスコミの取材等積極的に働きかけています。報徳園も盆踊りや花火大会、彼岸法要など、新聞やテレビに取材を依頼してはいかがでしょうか。



医務室より インタビュー「中瀬尚幸先生」



H23年2月から、月に2回往診に来て頂いています。



① 自己紹介をお願いします。

ジャズが好きで、休日は大音量でジャズを聴いています。あとは読書と家事をして休日を過ごします。連休が取れば、温泉巡りをします。

若さの秘訣は？…年齢には勝てません(笑)。心豊かに過ごすためには、現状に満足することも必要かなと思います。

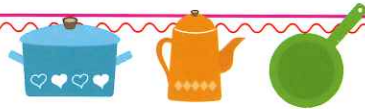


② 報徳園のイメージをお聞かせ下さい。

ベテランの介護・看護のもとで安心して過ごせる施設と思います。個人的な話ですが、私の父親もお世話になりました。医務室は、心身の不調にテキパキと対応している印象です。いつも和やかな雰囲気の中で仕事をさせてもらっています。また、食事が素晴らしい。毎回違うメニューを楽しみにしています。

利用者の皆さんが安心して時間を過ごしていただければと思います。

給食業務より



配膳係をしています。主食は米飯、軟飯、粥、ミキサー粥の4つの形態、副食は普通食、刻み食、超刻み食、極超刻み食、ミキサー食の5つの形態があります。副食から配り始めて、その後主食を並べていき、最後はミキサー粥を配膳します。アレルギーや禁止食があれば代わりを提供し、苦手な食べ物があれば抜いています。配膳の内容は、配膳係だけが把握していれば良いわけではないため、みんなが分かるように食事札を作り、厨房係、配膳係で2重のチェックをし、ミスや見落としがないようにしています。今後も職員間で意見を出し合い、利用者の方が食べやすく美味しい食事を提供していきたいと考えています。



設備環境保全室より

報徳園の敷地内には井戸があります。生活用水として利用されるほか、屋上に設置された太陽光を利用した集熱パネルでお湯を作り、お風呂などへの給湯や床暖房などの冷暖房にも使われています。30年以上前から使われているシステムですが、今ではよく言われるECOやCO2削減にも役立っています。井戸のシステムは大型の貯水タンクや非常用の発電機もあり、災害時に役立ちます。利用者さんが快適な環境で暮らせるように、このような設備の管理、保全を行うことも私たちの仕事です。



職員研修会

感染症の研修として、園内研修を行いました。看護職員が主となり、コロナウィルス、インフルエンザ、ノロウィルスなど感染症についての基礎知識と標準予防策、手指衛生等を学んだあと、介護職員がモデルとなり実際にノロウィルスを想定した実践（嘔吐物の処理方法や防護服の着脱方法など）を行いました。研修を行い、日々の予防と非常時の初動対応によって感染拡大を防ぐことがいかに大切かを再認識しました。今回の知識と手順を復習し、いざという時に迅速な対応を取ることで、利用者の方々が安心して暮らすことができるよう努めていきます。



～ 盆 踊 り ～

今年は4年ぶりに「報徳園盆踊り大会」が開催されました。浴衣姿の職員に「綺麗だね、素敵」と声をかけている利用者さんもみえ、久しぶりの盆踊り大会を楽しみにしてみえました。今年は地蔵盆の日に開催されたこともあり、日が落ちるのも早く、やぐらの提灯の灯りがとても綺麗でした。善休寺の太鼓を借りて、職員が太鼓をたたき、利用者さん、職員で輪になってやぐらを囲み、みんな笑顔で踊ってみえました。終盤には夜空に上がる大輪の花火に目を輝かせ「うわあ」と歓喜の声が上がりました。外に出られない利用者さんも窓から花火を楽しまれました。家族の方々にもたくさん来ていただき、一緒に素敵な時間を過ごされていました。



新任職員紹介 ～新人職員2名の自己紹介です～



岸川 成美（看護職員）

昨年9月入社させて頂き特養の看護師として働かせていただいています。5か月ほど経ちましたが、毎日同じことの繰り返しはなく、日々変化のある環境で、戸惑うことが多いのですが、前向きに、成長のチャンスと捉え、自分のものにしていけたらと思っています。まだまだ不慣れで、行き届かないこともあると思いますが、宜しくお願い致します。



田中 里美（看護職員）

デイサービスセンターの看護師として配属されました。施設での勤務は看護師として初めての事で戸惑うこともあります。報徳園のスタッフの一員として職務に遂行していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



お敬いの心を

鈴鹿市 唯心寺住職 山中真諭

生きている限り、いろんな事とのご縁があります。嬉しいこと、悲しいこと、楽しいこと、悔しいこと。けれどもそのどんな事にもくじけず留まることなく、前向きに生きていけたらどんなにすばらしいことでしょうか。

「ご縁ご縁みなご縁、すべてのご縁が私を育てる」そんな言葉が思いうかびます。「私を育てる」とあります。育てるとは成長させるということでしょうか、ただ単に賢くなるとか、高い技術や処世術が身につくというより、豊かな心にして下さると受けとるべきでしょう。

豊かな心、それは「敬いの心」のほかありません。普段忘れて、あるいはおろそかにしているけれど、人間なら誰もが敬いの心を求めているはず。「我々は本当に頭の下がるものに会いたいです。」の言葉のように、敬いの心こそ本当の人間の心ともいえます。その心に気づいて、その心を大切に歩いていけるように、ということです。

苦しみや悲しみとの出会いは、自他を凝視内省するご縁となり、特に内なる声を聞く耳が大きく育てられます。そのことは私が教えを求めるきっかけとなり、そのお念仏の智慧により、打算の心にとらわれず、純粋な心で物事を見ることの大切さが知らされます。そして、あらゆることは関係し合い、支えられ生かされている事に気づかされることとなります。「信心開發即獲忍」(文類偈)とあるように、苦も私を目覚めさせる仏さまの働きとして受けとめ、生きる力に転じていけるご縁となるのでしょうか。

私共は、つつい都合の悪いことが来ないように「平穩無事」を祈るわけですが、どんなことでも「私を育てるご縁」として、つまり「仏縁となりますように」と願うのが、念仏に生きる者の生活といえましょう。

お敬いの心は、信心の智慧より開かれてまいります。聞法の方に足を運んでまいりましょう。

100歳お祝い

今年度は4名の方が百歳になられました。お祝いの銀杯と表彰状が届き、表彰状を額に入ると大変感動されていました。皆に見てもらうために園内を周り、色んな人からお祝いの言葉をいただき、素敵な笑顔が見られました。その後は表彰状を居室に飾り、他の利用者の方々や職員に百歳のお祝いをしてもらった事を嬉しそうに話してみえました。





「あしたを想う」 川辺二郎さん

ギャラリー

集会所（仏間）前の廊下の壁は絵画や写真のギャラリーとして、入所者の方や来園者の方の和みと癒しの空間となっています。月単位で10作品ほどを入れ替え展示しています。今回は川辺二郎さんの絵画と島田幸夫さんの映画看板を紹介します。



「チャングムの誓い」 島田幸夫さん

華クラブ

令和5年10月より「華クラブ」を再始動しました。今年度は事務職員、介護職員、給食室職員と、多職種のみんなが集うこととなりました。フラワーアレンジメント、ドライフラワーリース、ビーズ飾りのボールペン、編み物小物などを計画しています。みんなの生活に少しでも「華」をそえることができれば幸いです。12月1日はクリスマスアレンジでリースとテーブル花を作りました。



表彰

長年報徳園に勤務し、その功績により今年度各種表彰を受けた職員を紹介します。

- 厚生労働大臣表彰
大前 恵（介護職員：32年）
- 三重県知事表彰
伊藤 綾子（生活相談員：31年）
- 三重県社会福祉協議会会長表彰
菅寄小百合（介護職員：22年）
平子 俊輔（生活相談員：22年）
- 全国老人福祉施設協議会会長表彰
平子美納子（介護職員：20年）
山口恵美子（看護職員：20年）
- 全国老人福祉施設協議会感謝状
門脇 真（介護職員：15年）
沖林 京子（介護職員：15年）
寺井 規子（介護職員：15年）
- 三重県老人福祉施設協議会会長表彰
近澤 明莉（介護職員：10年）

編集後記

報徳園だよりをご覧いただきありがとうございます。感染症対策で行っていた面会の制限も少しずつ緩和し、ご家族の方々に園内の様子を見ていただく事ができるようになり、とても嬉しく思います。また報徳園だよりを見て、報徳園を知っていただくのはもちろんですが、「もっと知りたい」と興味を持っていただけるような広報誌になればと思っています。